

備後国府を生かしたまち・ひとづくりに関する決議

私たちが暮らす府中市は、奈良・平安時代には備後国府が置かれ、広島県東部の政治・経済・文化の中心であった。国府から各地に通じる交通路が整備され、交通の結節点として人々が集い、また周辺には鍛冶・製鉄・木製品加工・織物などの工房が軒を連ね、それが現在のものづくりのまちへとつながっている。国府跡の場所は長い間不明であったが、30年以上に及ぶ発掘調査で、その姿をあらわしつつあり、一部が平成28年10月3日に国史跡に指定された。

本市議会は、先人たちから受け継いだ、大切な「歴史遺産」「まちの記憶」を、住民と行政が協働して、後世にしっかりと伝え、国府を生かした活気あるまちづくりとなるよう、次のことの推進に取り組む。

- 1 国府の歴史、伝統に由来する遺産を活用して、府中への誇りと愛着心の醸成に努める。
- 2 その歴史的価値、文化的価値、観光的価値を、実感できる取り組みを行い、市内外に向けて発信する。
- 3 国府に由来する歴史文化遺産を、積極的に地域及び学校教育の資源として活用し、子どもたちが地域に誇りを持ちながら、世界にはばたける人材になるよう取り組む。

以上、決議する。

平成28年12月16日

広島県府中市議会